

題材名

「日本のリズム・世界のリズム」 ～リズムを重ねて楽しもう～

1. 学 年 第4学年 38名 (男子 23名 女子 15名)

2. 教材名 「宴」 林英哲 作曲
「ブラジル」 バローゾ 作曲
「おどれサンバ」 ブラジル民謡

3. 題材の目標

○日本とブラジルの音楽に親しみ、それぞれの国の音楽のリズムや楽器の特徴を感じ取るとともによさに気づき、それらをもとに自分達の表現を工夫する。

4. 学習指導要領との関わり

第3学年及び第4学年

○音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。【A表現(2)ウ】

○互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。【A表現(2)エ】

○音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。【A表現(3)イ】

○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。【B鑑賞イ】
[共通事項] ア(ア)音色, リズム, 音の重なり (イ)反復

5. 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
<p>① 楽器の音色に気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏する学習や、友達の楽器の音や旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③ 音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り</p>	<p>① 互いの楽器の音、リズム、主な旋律や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>② 音の重なりや反復等を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや</p>	<p>① 楽器の音色に気を付けて、旋律楽器や打楽器を演奏している。</p> <p>② 友達の楽器の音や旋律、伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。</p> <p>③ 音の重なりや反復等を生かし、音を音楽に構成している。</p>	<p>① 音色・リズム・音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造に気を付けて聴いている。</p>

組もうとしている。	願い、意図をもっている。		
-----------	--------------	--	--

6. 題材観・児童観・指導観

(1) 題材観

本題材は、日本とブラジルの音楽がもつリズムの特徴や躍動感を感じ取ったり、味わったりしながら、それらを生かして音楽をつくることや友達の音と合わせて演奏することをねらいとする。

これらのねらいにせまるため、本題材では教材として鑑賞曲「宴」「ブラジル」、器楽合奏曲「おどれサンバ」を扱う。

「宴」は日本の音楽として庄原市東城町出身の太鼓奏者である林英哲氏が作曲されたものである。本校の児童は4年次に林英哲氏の作曲した和太鼓の曲を演奏するので、興味をもって聴き、日本の音楽の特徴をとらえることができるものである。

「ブラジル」はブラジルのサンバの代表曲であり、サンバのもつ躍動感を味わい、特徴的なリズムや楽器の音色などを感じ取ることができる。

「おどれサンバ」では、繰り返しのあるリズムや旋律にのって体を動かしたり、歌にリズム伴奏をつけたりすることでサンバの音楽の楽しさやリズムの特徴を感じ取りやすい楽曲である。本題材では、この曲の前と後にバトウカーダ（サンバにおける打楽器だけの合奏）部分をつくる。リズムの重ね方を工夫し、音楽を構成するため、よりサンバの音楽を楽しみながら表現できる題材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、音楽の授業で歌ったり演奏したりすることを楽しむ児童が多い。一方で、リコーダーの運指等、技能面に課題ある児童もいる。また、全体で活動するとみんなの音にまぎれて自分の音が分かりづらく、音を合わせることに課題のある児童もいる。

児童は、1学期に「ひょうしとせんりつ」の学習で、様々な拍子の楽曲やミュージカルの表現に触れた。鑑賞では指揮をしたり体を動かしたりして拍の流れを感じたり、旋律や速度、リズム等から曲想を感じ取ったりすることができた。また、グループごとに「エーデルワイス」の表現を工夫して合奏を行い、演奏が苦手な児童も自分の役割をもちながら楽しんで活動に参加することができた。しかし、音を重ねる工夫はできたが、思いや意図をもって表現を追究するという点が不十分であり、自分達の演奏を聴いて、それが表現したいことに近づいているかということについて考える力に課題がある。

(3) 指導観

本校の4年生は総合的な学習の時間で和太鼓の演奏をしており、毎年地域の老人ホームで演奏している。そこで、老人ホームの方から「太鼓に加えて、日本以外の国の元気の出る音楽が聴きたい」という依頼を受け、“老人ホームの方が元気になる世界の音楽をとどけよう”という思いを持たせて本題材に入ることで、ストーリー性のある題材構成となるようにする。

この題材では、まず、日本の音楽とブラジルの音楽を聴き比べたり演奏したりして、楽しみながらそれぞれの音楽の音色やリズム等の特徴に気付かせる。そして、「おどれサンバ」でその特徴を生かし演奏したり、リズムアンサンブルの音楽づくりをしたりして、よりサンバの音楽の楽しさを感じながら演奏させる。

第一次では、主に鑑賞を行う。日本やブラジルの音楽に親しみ、そのリズムや楽器の特徴を感じ取るとともにそのよさに気付くことを目標とする。そのために、まず日本とブラジルの音楽を聴き比べ、体を動かしたり口ずさんだりして楽しみながら鑑賞させて音色やリズム等の違いに気付かせる。特にサンバは、リオのカーニバルの映像を見せて体を動かしながらノリのよいリズムを感じさせたり、サンバの音楽を特徴づけている楽器の音色に着目させ、リズムを唱歌や手で合わせたりして音楽の楽しさを感じさせる。

第二次では、サンバの音楽の特徴を生かして、リズムの重ね方や音楽の構成を工夫して音楽づくりし、友達と音や伴奏を聴きながら、自分の音を合わせて演奏することを目標とする。そのために、本場のサンバを再び聴き、バトウカーダがあることを感じ取らせる。それを歌の前に入れることで、より本場のサンバに近づけようという思いをもたせ、鑑賞で聴き取ったサンバの音楽のリズムや特徴を生かして表現を工夫させていく。基本のリズムパターンだけでなく、掛け声、スタート・ストップの合図、コール&レスポンス等の技も取り入れながら、グループごとに思い描く自分達のバトウカーダを作り上げる活動を通じて、思いや意図をもって工夫をし、高め合う場の設定をする。グループで何度も繰り返し試す・聴く・考える中で、自分や友達の音をしっかりと聴き、自分達の求める音楽に近づけるようにする。複数のリズムが重なって一体となる気持ちよさや、バトウカーダの様々な技を使って音を聴き合いながらアンサンブルする楽しさを感じさせたい。

7. 題材の計画 (全8時間)

総合的な学習との関連 (課題発見)



老人ホームで毎年四年生は太鼓の演奏をしているよね。老人ホームの職員の方から、こんなお願いが届いたよ。
【オリンピックも近くなってきたので、太鼓だけでなく日本以外の音楽もみんなに聴かせてあげたい。みんなが元気になるような音楽をお願いします。】



元気になる音楽ってどんなものがあるのかな。



太鼓以外にぼくたちにできる音楽は何があるだろう。

次	時	教材	主な学習活動 (○) 予想される児童の反応 (・)	評価規準 (評価方法)
第一次 (二時間)	一	「宴 フラジル」	課題の設定 ○老人ホームの方からのメッセージを受け取り、計画を立てる。 ・世界の音楽って何があるのかな。 ・老人ホームの方が元気になるような音楽って、どんなものかな。 ・次のオリンピックは日本であるけれど、前回ほどこの国だったのかな。その国にはどんな音楽があるんだろう。	ア一③ (行動観察・発言の内容)
			情報の収集 ○日本とブラジルの音楽を比べながら聴く。 ・日本の音楽は速くなったり遅くなったりするね。 ・ブラジルの音楽はとってもにぎやかだね。 ・太鼓を使っているのは同じだけど、リズムも音も全然違って面白いね。 ・サンバの音楽は楽しくて元気が出そうだよ。	
			老人ホームの方たちに、世界の元気になる音楽をとどけよう！	
	二		情報の収集 ○映像を観たり音楽を聴いたりしてサンバの特徴を掴む。 ・みんな派手な衣装をつけて踊っていて楽しそう！ ・たくさん太鼓のリズムが重なっているよ。 ・サンバのリズムはノリノリな感じがするね。	エ一① (行動観察・ワークシート)
第二次 (六時間)	三・四	「おどれサンバ」	情報の収集 ○基本のリズムを練習する。 ・違うリズムが合わさってサンバのリズムになるんだね。 ○楽器でリズムを練習し、歌と合わせる。 ・歌に合わせてると、サンバの音楽に近づいた感じがするよ。 ・楽器の音によって感じが変わっておもしろいね。	ア一① (行動観察) ウ一① (演奏聴取)

五・六		<p>情報の収集</p> <p>○本場の「バトゥカーダ」について知り、その技の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートやストップがあると、みんなでそろそろ瞬間が気持ちいいよ。 ・コール&レスポンスは真似っこみたいで楽しいね。問いと答えだね。 ・掛け声を入れると盛り上がるね。 ・だんだん増えてたり減ったりすると音の大きさが変化するね。 <p>○どんな演奏にしたいかグループで決め、バトゥカーダを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がるサンバにしたいね。最初からみんなでやろうよ。 ・最後に向かって盛り上げたいから、最初はふえふえを使おう。 	<p>アー② (行動観察)</p> <p>ウー③ (演奏聴取・発言の内容・ワークシート)</p>
七【本時】		<p>整理・分析</p> <p>○グループでリズムの重ね方を工夫してバトゥカーダを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めはみんなでやるけど、楽器の音がよく分かるように、「ふえふえ」「へりへり」を入れてみよう…やってみると音の大きさも変わって音楽に変化があっていい感じ! ・楽器の音がよく分かるようにするなら、「コール&レスポンス」で一つずつ楽器を試してみるのはどう? そのあと「ふえふえ」にしたら面白いと思うな。 <p>○グループでアドバイスし合い、工夫改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「踊りたくなるサンバ」にするために、重ねる楽器の順番を変えようよ。高い音から始まって、最後に太鼓を入れてみよう。 	<p>イー② (演奏聴取・発言の内容・振り返りシート)</p>
八		<p>まとめ・表現</p> <p>○グループごとにバトゥカーダを入れて「おどれサンバ」を演奏し、聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技を上手に取り入れて盛り上がる場所があって楽しかったです。 ・みんながリズムにのって、ストップのところで音がぴたっと揃うのが気持ちよかったです。 	<p>イー① (発言の内容、ワークシート)</p> <p>ウー② (演奏聴取)</p>

総合的な学習の時間との関連 (実行・振り返り)



サンバの音楽は、いろんなリズムが重なってノリノリのリズムを作っているんだね。老人ホームのみなさんにも喜んでもらえたよ。



日本も他の国も太鼓はあるけれど、国によってリズムが全然ちがったね。みんなで気持ちを合わせて演奏したことを、私たちの太鼓の演奏にも生かしたいな。

8. 本時の指導（7/8時間）

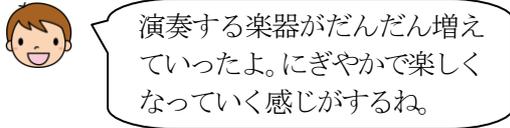
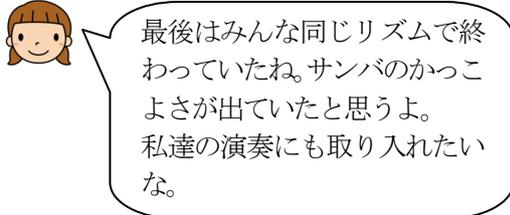
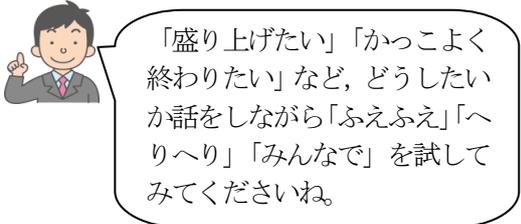
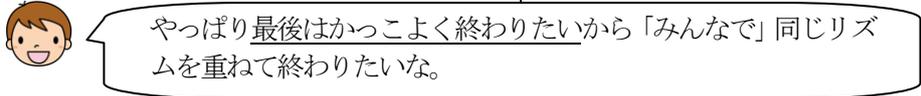
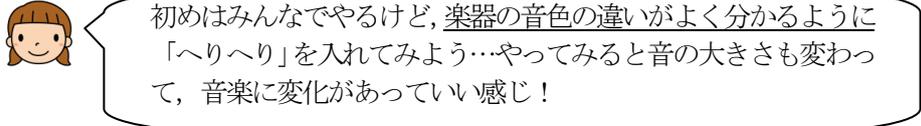
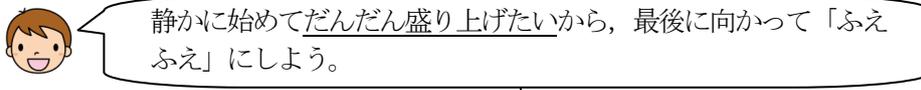
(1) 本時の目標

自分の思いや意図に合った音楽をつくるために、リズムの重ね方を工夫することができる。

(2) 評価規準

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、自分の思いをもって音楽をつくっている。

(3) 学習の展開

	学習内容と学習活動 予想される児童の姿	指導上の留意事項 (○) つまずきへの支援 (・)	評価規準 (評価方法)
つ か む	1 前時までの流れを確認する。		
	2 5年生の音楽を聴く。  	○ 事前に録音した範奏を聴かせ、自分たちの演奏との違いに気付かせる。	
	3 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ リズムの重ね方を工夫して、自分達がつくった音楽を変化させよう。 </div>	○ 課題確認後、見通しをもたせるために「ふえふえ」「へりへり」「みんなで」などのキーワードとその効果を確認し、板書する。	
	4 グループでリズムの重ね方の工夫をしてリズム伴奏を改善する。 	○ グループ活動の進め方やルール等を確認させ、スムーズに活動できるようにする。 ○ リズムの重ね方をいろいろ試しながら決めるようにさせる。	
考 え る			
			
			
練 り 合 う			音楽表現の創意工夫 (楽譜・演奏聴取・発言の内容)

<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめ</p>	<p>5 前半と後半に分かれて発表し、聴き合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演奏するグループには、どうしたくてどんな工夫をしたのか発表してから演奏するよう指示する。 ○ 早く終わったところは、もう一度演奏をお願いしてもよいことを伝える。 	<p>音楽表現の創意工夫 (ワークシート)</p>
	<p> だんだん盛り上げる感じを出すために、少しずつ増えていく「ふえふえ」を使いました。</p> <p> メリハリをつけるために、「へりへり」をした後、最後に「みんなで」一緒に終わるようにしました。</p>		
	<p> 最初は1人で演奏を始めてだんだん増えていく「ふえふえ」を使っていたので、だんだん盛り上がる感じがしました。</p>		
	<p> 最初はみんなで演奏していたのに「へりへり」でだんだん楽器が少なくなっていく、そのまま終わるのかなと思ったけど、最後に「みんなで」同じリズムをたたいて終わっていたのがメリハリがあつてとてもかっこいいと思いました。</p>		
	<p>6 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前半・後半終了後、よかった班に全体の前で演奏させる。 ○ 前時・本時の楽譜をミニホワイトボードに掲示する。 	
<p> 今日の授業では自分たちの音楽に「ふえふえ」を取り入れました。「ふえふえ」を使うとだんだん元気な感じになっていったのでよかったで</p> <p> 最後に「みんなで」同じリズムをたたくようにしました。「みんなで」を使うと、かっこよく終わることが分かりました。次はもっとたくさん的人数で演奏してみたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「○○を使ったらこうなった」「次はこうしてみたい」という視点を与え、個別のワークシートに記入させる。 		
<p>7 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時は自分たちの作った音楽を「おどれサンバ」に合わせて演奏することを伝える。 		